

## コミュニケーション技術

**問題 33** 傾聴の技法として、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 最初に客観的事実を確認してから聴く。
- 2 相手の言葉を妨げないで、じっくり聴く。
- 3 相手の目をじっと見つめながら聴く。
- 4 早い動きでうなずきながら聴く。
- 5 解決策を提案しながら聴く。

**問題 34** **G**さん(70歳, 男性)は, 双極性感情障害(bipolar affective disorder)があり, 入退院を何度も繰り返してきた。最近, 様々な考えがつながりもなく浮かんで多弁になる躁状態そうじょうたいになり, 訪問介護(ホームヘルプサービス)に来た**H**介護福祉職にも次々に話しかけてきた。

このときの**H**介護福祉職の対応として、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 「一度にいろいろ話すのはやめてください」
- 2 「また入院することになりますね」
- 3 「いつもより気分が高ぶっていますよ」
- 4 「私にはよく分かりませんが…」
- 5 「もっとお話を聞かせてください」

**問題 35** Jさん(82歳, 女性)は, 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)で暮らしている。Jさんは朝食を済ませていたが, また朝食の準備を始めた。他の利用者が「さっき食べたでしょう」と言うと, Jさんは「まだです。今起きたばかりです」と答えた。

このときのJさんに対する介護福祉職の言葉かけとして, **最も適切なものを1つ** 選びなさい。

- 1 「おなかがすきましたか」
- 2 「さっき, 食べたばかりですよ」
- 3 「後片づけまで終わりましたよ」
- 4 「もう1回食べるのですか」
- 5 「食事より掃除をしませんか」

**問題 36** Kさん(72歳, 女性)は, アルツハイマー型認知症(dementia of the Alzheimer's type)である。認知症対応型共同生活介護(グループホーム)で暮らしているが, いつも「夫に迷惑をかけて申し訳ない」と言っている。ある日, 面会に来た夫に対して, 「いつもお世話様です」と挨拶しながら, 誰なのか分からないで不安そうな様子であった。

Kさんへの介護福祉職の最初の言葉かけとして, **最も適切なものを1つ** 選びなさい。

- 1 「誰でしょうか, 覚えていますか」
- 2 「顔は覚えているけど, 名前を忘れたのですね」
- 3 「頑張って思い出してみましよう」
- 4 「ご主人ですよ。来てもらってよかったですね」
- 5 「迷惑をかけて申し訳ないと伝えましよう」

**問題 37** Lさん(70歳, 男性)は, 脳梗塞(cerebral infarction)の後遺症で聴覚的理解と視覚的理解の障害があるが, 発語はできる。日常会話で使用する単語は理解できるが, うまくコミュニケーションをとれないことが多い。介護福祉職が「あしたは晴れですね。あしたの午後散歩に行きましょう」と伝えと, Lさんは話の内容が分からない様子である。

Lさんが理解できるような関わり方として, **最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 もう一度, 低い声で同じ言葉を伝える。
- 2 もう一度, 大きな声で同じ言葉を伝える。
- 3 「あした, 散歩」と短い言葉で伝える。
- 4 「あした, さんぽ」とひらがなで書いて伝える。
- 5 言葉を1音ずつに区切って, 「あ・し・た・さ・ん・ぽ」と伝える。

**問題 38** Mさん(72歳, 女性)は, 介護老人保健施設に入所している。糖尿病性網膜症(diabetic retinopathy)で, 3か月前に右目を失明した。左目はかすかに見える状態である。聴覚機能, 言語機能, 認知機能に問題はない。

Mさんへの介護福祉職の対応として, **最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 Mさんの右側から話しかける。
- 2 Mさんの体に触れてから挨拶をする。
- 3 物音を立てないように関わる。
- 4 「あそこ」「これ」と代名詞で説明する。
- 5 視覚情報は整理して口頭で伝える。

**問題 39** 箱型補聴器を使用する利用者と介護福祉職のコミュニケーションに関する

次の記述のうち、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 介護福祉職は、イヤホンを装着した耳に向かって話しかける。
- 2 介護福祉職は、できるだけ大声で話す。
- 3 利用者は、比較的聞こえる側の耳にイヤホンを装着する。
- 4 利用者は、箱型補聴器を会話のときに限って使用する。
- 5 利用者は、雑音の多い場所では箱型補聴器の音量を上げる。

**問題 40** 介護記録に関する次の記述のうち、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 介護福祉職の意見を中心に記録する。
- 2 調査・研究目的で記録を利用することは避ける。
- 3 記録は非言語的コミュニケーションのツールとして活用する。
- 4 利用者と家族は記録を閲覧することができる。
- 5 介護保険法では記録の様式を統一している。